

基本目標 1.					指 標		「住みよいまち」と感じる人の割合 (R5住民アンケート 85.9%)														
誰もが住みやすく、いきいきと安心して暮らせるまちづくり					年 度	R7	R8	R9	R10	R11											
					目 標 値	－	－	－	87.0%	－											
					実 績 値	－	－	－	※	－											
					前 年 対 比	－	－	－	※	－											
					達 成 率	－	－	－	※	－											
※R10 住民アンケートにて																					
番号	基本的方向	具体的な取り組み	主な事業	重要業績評価指標 (KPI)	担当課	令和7年度（第3期の1年目）															
						達成状況	実施内容等	事業分析 (効果・達成)	課題・改善												
1	①持続可能な協働のまちづくり	ア. 住民等主体のまちづくり事業の支援・推進	自立（律）のまちづくり交付金事業 スクールヘルパーの育成支援 アドプト事業 （その他の事業） 介護予防ふれあい事業（ふれあい喫茶、ふくろうの会、ミニデイサービス等）	自立（律）のまちづくり取り組み自治会数（自治会／年）		地域振興課	△	各自治会において、環境美化活動、世代間交流事業、防災訓練等、住民主体のまちづくり活動を実施していただきました。	第5期は防災事業を必須事業としましたが、32自治会において防災事業を実施され、自主防災活動のさらなる推進に努めていただけました。 【参考/参加延べ人数】8,294人（令和6年度 6,852人）	令和7年度から第5期（3ヶ年事業）が始まっています。事業開始から13年が経ち、自治会の自立（律）において一定の成果が得られました。 第5期は、防災事業を必須事業としたため、防災事業を実施しなかった1自治会が対象から外れてしまいました。今後も情報共有を行い、全自治体が有意義な事業を実施できることを期待します。											
R7				R8	R9						R10	R11									
目標値				33	33						33	33	33								
実績値				32																	
前年対比				△ 1																	
2							地域・スクールヘルパー登録者数（人）		社会教育課	△	町内の4小学校すべてにおいて校舎内外の巡回や来校者対応、また、交通安全や防犯上の立場から見守り活動を実施しました。	地域ボランティアの協力を得て見守り活動を行うことで、校内及び登下校時における小学生の安全を確保することができました。	登録者数は近年減少傾向にありますが、継続的な活動にしていけるためにも、制度の周知、ボランティアの確保に努める必要があります。								
							R7	R8						R9	R10	R11					
							目標値	400						400	400	400	400				
							実績値	375													
							前年対比	△ 6													
達成率	93.8%																				
3	イ. 大学・企業等との連携の推進	大学等との連携事業の推進 企業等との連携事業の推進	大学等との連携事業数（件／年）	学校教育課 社会教育課 保健センター 地域包括支援センター 農林振興課 地域振興課	○	【神戸医療未来大学】 ①（学校教育課）福岡小学校と神戸医療未来大学の留学生が多文化共生交流会（6/17、9/18）を実施しました。 ②（学校教育課）留学生が、来日直後で日本語が話せない児童に日本語指導等を行いました。 ③（保健センター）「学童運動教室」を年26回開催しました。（延参加者975名） ④（地域包括支援センター）高岡地域で地区と大学が連携し、月1回認知症カフェを開催しました。 ⑤（文化センター）老人大学の専門講座「健康科学部」を昨年度に引き続き開設し、神戸医療未来大学の先生方に講師をしていただき、座学と実技を交互に、年20回実施しました。 ⑥（地域振興課）神戸医療未来大学と連携し、FUKUSAKI百鬼夜行2025を実施しました。（主催：神戸医療未来大学・福岡町後援） ・（農林振興課）令和7年度において、産官学連携協定による、「もち麦に関連した取組実績」はありませんでした。 【神戸大学大学院等】 ⑦（社会教育課）神戸大学大学院人文学研究科との地域連携事業による「三木家資料整理」を実施し、三木家資料の整理・調査・活用、三木家住宅資料を利用した住民参加型のワークショップを実施しました。 ⑧（社会教育課）「地域歴史遺産の掘り起こし」を実施し、柳田國男や松岡家に関する調査成果を展示や広報などで周知するとともに、地域所在資料調査を行いました。 ⑨（社会教育課）園田学園大学と共同で講座「柳田國男『故郷七十年』を読もう」を1回開催しました。 【その他企業等】 ・（地域振興課）第3回手話ダンス甲子園を開催しました。（NPO法人日本パラファンク協会と共催） ・（地域振興課）もちむぎ万博2025を開催しました（RAPPOR. との共催）	【学校教育課】 留学生・小学生ともに多文化共生やインクルーシブ教育に対する実践的な指導力が養われました。 1対1の個別対応や年齢の近い大学生との関わりにより、日本語習得だけでなく心理的な安定や学校への適応感が向上しました。 【保健センター】 学童運動教室では、運動することの大切さ、楽しさを啓発することができました。 【地域包括支援センター】 地域の高齢者と大学生が交流する場となっており、高齢者の介護予防や社会参加の機会を提供しています。 【文化センター】 高齢者の健康づくりや病気の予防のため、座学で得た知識を実技で実践し、日常生活での食事や運動に気をつけることができ、大いに役に立てられています。 【地域振興課】 神戸医療未来大学が開催した百鬼夜行の企画調整にも携わり、yokaiのまちの発信を行うことができました。 エルデホールで手話ダンス甲子園決勝大会を開催し、共生のまちづくりの発信を行うことができました。 特産もちむぎをPRするため、キッチンカーでのアレンジレシピを開発することができました。 【農林振興課】 令和7年度は特産物を活かした新商品（もち麦スープ）を開発しましたが、大学との連携は実施できませんでした。（大学において専門分野の教授が離任されたため。） 【社会教育課】 学術的な助言や指導を受け、地域資料の保全・活用を進めることができました。実際の資料を用いた住民向けワークショップを開催することで、文化財に対する興味・関心を高めることができました。研究成果を特別展や広報、講演会で定期的に発信したり、地域所在資料の目録を冊子として作成し地域の方に還元することで、文化財保存の意識を高め、地域への愛着を醸成することができました。	【学校教育課】 留学生の日本語指導スキルや異文化理解度にばらつきが生じやすいため、事前の研修や大学教員による継続的支援を必要としています。 留学生の試験期間や就職活動、卒業等により、サポート体制が年度や学期ごとに不安定になりやすいため、ボランティアの安定供給が可能な仕組みづくりや、大学側で単位認定やインターンシッププログラムとしての公式な位置づけなどが今後必要になってきます。 【地域包括支援センター】 認知症カフェについては、継続を希望していますが、大学の学部編成により、今後の開催が未定となっています。（令和8年度は継続予定） 【地域振興課】 引き続き神戸医療未来大学との連携による取組の実施を検討する必要があります。 令和8年度もエルデホールで第4回手話ダンス決勝大会を開催予定です。しかし、サブ会場となる文化センター大ホールが令和9年度以降使用不可となるため、運営等の課題があります。 令和8年度も引き続きもちむぎ万博を開催し、PRを実施します。 【農林振興課】 もち麦を使用した商品開発については、大学において専門分野の教授がおられれば、今後も協力しながら進めていきたいと考えています。 【社会教育課】 神戸大学との連携事業は、専門的な指導による地域の宝の継承や地域資源の発掘につながり、地域活性化の重要ツールであるとともに、携わる学生にとって地域づくりの学びの場でもあります。引き続き大学との連携を強化・充実させ、専門的なアドバイスをいただきながら、新たな発見と事業実施に努めます。													
R7									R8	R9	R10	R11									
目標値									10	10	10	10	10								
実績値									9												
前年対比									+2												
4									ウ. デジタル技術を活用した情報化の推進	SNSを利用した情報発信事業 電子申請等デジタル行政サービスの推進 町税および地方公共団体の公金収納事務のデジタル化推進 （その他の事業） 税務署と連携したe-tax利用の推進によるデジタル化の普及 デジタル人材の確保育成	コンビニ交付の件数（件／年）		住民生活課	○	コンビニ交付は、マイナンバーカードを利用して、全国のコンビニエンスストアなどに設置されているマルチコピー機で住民票の写しなど各種証明書が取得できるサービスで、福岡町では令和2年1月に導入、運用を開始し、利用件数は年々増加しています。	マイナンバーカードの普及に伴い利用件数は増加しています。引き続き、カード交付時などにコンビニ交付の案内を行い、交付率の向上をめざします。	コンビニ交付システムベンダーと協力し、個人情報漏えい対策を行うとともに、円滑な証明書発行を行うよう心がけます。また、高齢の方など、デジタル化に不安を抱く方達にむけ、丁寧な説明を行います。				
											R7	R8						R9	R10	R11	
											目標値	6,000						6,000	6,000	6,000	6,000
											実績値	5,108									
											前年対比	+245									
5			共通納税利用件数（件／年）		税務課	○	共通納税とは、納税者が地方税共通納税システムを用いて自宅や会社から地方税の納付手続きを電子的に行うことで、全ての地方公共団体へ一括して電子納付することができます。令和元年10月から法人町民税と町県民税（特別徴収）について運用を開始し、令和5年度からは固定資産税と軽自動車税について、納付書に地方税統一QRコードを印字して地方税お支払サイト等から共通納税ができるようになりました。	共通納税の普及と、令和5年度からの固定資産税と軽自動車税への利用拡充により、利用件数は年々増加しています。引き続き周知を行うとともに、他の税目や保険料への利用拡充を図り、利用件数の向上をめざします。	今後は、システム標準化への移行を機に、町県民税（普通徴収）、国民健康保険税、介護保険料、後期高齢者医療保険料への共通納税の利用拡充を検討します。												
			R7	R8						R9	R10	R11									
			目標値	25,000						25,000	25,000	25,000	25,000								
			実績値	12,301																	
			前年対比	+1,853																	
達成率	49.2%																				

番号	基本的方向	具体的な取り組み	主な事業	重要業績評価指標 (KPI)	担当課	令和7年度（第3期の1年目）										
						達成状況	実施内容等	事業分析(効果・達成)	課題・改善							
6	②いつまでも健やかに暮らせる健康社会づくり	ア. 健康寿命の延伸(健康・医療のまちづくり)	健診体制の整備と健診意識の啓発 健診WEB予約導入等 デジタルを活用した健康増進 健康増進・食育推進事業 食育動画配信 介護予防ふれあい事業(ふくろうの会、ふれあい喫茶、ミニデイサービス等) (その他の事業) 予防接種の勧奨・助成事業 医療機関との連携強化事業 介護予防についての知識の普及と啓発 高齢者福祉事業	特定健診受診率(%／年)		保健センター	○	特定健診は、メタボリックシンドロームに着目し、生活習慣の改善や重症化の予防を目的に実施しました。 対象者の氏名を印字した申込書を各世帯に郵送するほか、休日健診の実施、令和6年度に貯めた「健康づくりポイント」を健診費用の一部に活用してもらう等、受診しやすい環境づくりに努めました。 健診未受診者には、対象者の健診受診履歴や通院歴に合わせた内容で勧奨通知(年2回)を令和6年度に引き続き行いました。 がん検診では、クーポン券の発行を行うとともに、女性がん検診の個別検診を実施しました。	令和7年度の特定健診対象者2,323人に対し、受診者数は、集団健診948人、個別健診95人、計1,043人(受診率44.8%)で、前年度に比べ2.6ポイント上昇しました。 各世帯への申込書の郵送、休日健診の実施、未受診者への受診勧奨など、多くの方に受診していただける環境づくりに努めました。前年度に比べて受診率が増加したことは、健康増進意識の向上の表れではないかと考えています。	受診率は増加していますが、目標には達していないため、目標達成に向けて、受診しやすい環境作りや未受診者への勧奨に努めます。						
				R7	R8						R9	R10	R11			
目標値				50.0	50.0						50.0	50.0	50.0			
実績値				44.8												
前年対比				+2.6												
達成率				89.6%												
7				健康・食育教室等参加者数(人／年)		保健センター	△	「福崎町すこやかヘルスプラン(第3次健康増進・食育推進計画、第2次自殺対策計画)」に沿って、ところとからだの健康づくりと食育を一体的に取り組みました。 住民一人ひとりが正しい生活習慣を確立し、生涯健康で健やかに暮らせるよう、地域、学校、食育を含む関係団体等との連携を図りながら事業を実施しました。 母子保健事業では、産後ケア、産前産後サポート事業。成人保健事業では、あすへの健康教室や気功教室。食育事業では、町内認定こども園食育講座、児童及びその保護者対象の運動・食育教室、低栄養予防として高齢者への集団指導を実施しました。	食育事業においては、認定こども園での食育教室をはじめ子育て世代に重点をおき、教室の定員人数も増やして実施した結果、前年度より参加人数が増加しました。町ぐるみ健診受診後の健康教室を実施し、個別相談も行いながら、生活改善に繋がる助言指導を心掛けました。 【参考】母子保健事業 461人(R6 544人) 成人保健事業 915人(R6 964人) 食育推進事業 3,184人(R6 3,164人) 計 4,560人	令和7年度に策定した「福崎町第2次すこやかヘルスプラン」に沿って各事業をさらに効果的に進めていきます。健康増進は、健診データや生活状況に基づき効果的な指導を行っていく必要があります。また、食育事業においては、多くの方に食に関心を持ってもらえるよう内容等工夫しながら継続して事業を実施するとともに、子どもを通して、その保護者世代(働き世代)への働きかけを推進します。 今後は、住民一人ひとりが健康や食育に関心を持ち、自ら積極的に健康づくりに取り組むことができるような支援や仕組みづくりが必要です。						
					R7						R8	R9	R10	R11		
				目標値	7,000						7,000	7,000	7,000	7,000		
				実績値	4,560											
				前年対比	△ 112											
				達成率	65.1%											
8				地域ふくろうの会参加者数(人／年)		地域包括支援センター	△	一般介護予防教室として、「ふくろうの会」を地区自主活動として展開し、週1回程度、地区公民館で民生児童委員等が世話人となり、高齢者の介護予防、健康寿命延伸を目的として、CDやDVDを視聴しながらセラバンドを使ったふくろう体操を実施しました。希望地区には、元気塾として、薬剤師や歯科衛生士を派遣し、健康教育を開催しました。	各地区の公民館等で週1回程度参集してふくろう体操を行うことにより、転倒予防、介護予防につながるとともに、高齢者同士のコミュニケーションの場にもなり、見守りや社会参加の機会ともなっています。 令和7年度 活動助成金 33地区×30,000円 1地区×20,000円 参加人数 のべ19,320人 実625人 (参考:令和6年度 のべ18,657人 実630人)	新規の参加者が少なく、高齢化や病気等により参加が困難になったり、支援者の担い手不足が見られる地区もあります。ふくろう体操は、CDをリニューアルし、次年度に体育指導員により普及啓発予定です。精勤賞や介護予防ポイントを付与するなどの工夫により、世話人の支援及び参加者増を目指したいと考えています。						
					R7						R8	R9	R10	R11		
				目標値	800						800	800	800	800		
				実績値	625											
	前年対比	△ 5														
	達成率	78.1%														
9	③誰もが安心して暮らせるまちづくり	ア. 地域福祉の充実	巡回バス運行事業 認知症高齢者支援対策の推進 人生いきいき住宅助成事業 (その他の事業) 移動販売車運営事業 外出支援サービス事業 地域生活支援事業(障がい者の社会参加・交流の促進) 基幹相談支援センター事業 共生型サービス事業	巡回バス平均利用者数(人／日)		福祉課	△	巡回バス出前講座の開催や、公共交通総合時刻表を利用者に提供するなど、利用しやすい運営を行っています。また、町内を広く周遊し、買い物や通院のニーズにマッチした運行ができています。	巡回バスの周知を図っていますが、1日当たり利用人数は減少傾向にあります。これまで乗られてきた方が高齢により利用されなくなったことや、障がい福祉サービスの事業所が1事業所閉鎖したことにより、これまで利用されていた利用者が利用しなくなったことが要因と考えられます。	巡回バスの周知や、時刻表のダイジェスト版を作成するなど、利用者の見やすさの改善に努めました。今後も、巡回バスサルビア号の出前講座の実施など、巡回バス利用の推進に努めていきます。						
				R7	R8						R9	R10	R11			
目標値				85.0	85.0						85.0	85.0	85.0			
実績値				66.9												
前年対比				△ 3.0												
10				認知症サポーター養成講座受講者数【累計】(人)		地域包括支援センター	○	認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座を、町内の小学4年生、中学2年生と、依頼のあった一般の方を対象に実施しています。認知症の理解を一般住民に周知し、認知症の人を地域全体で支えるネットワークづくりを目指します。	令和7年度は、キャラバンメイト登録者27人中9人が活動しました。養成講座受講者数は、小学4年生167人、中学生169人、一般サポーター養成者数114人で、合計450人でした。昨年度より124人多く、累計の養成者数は5,580人と、順調に増加しています。積極的に周知し、養成者数を増やし、目標達成を目指します。	養成人数は増えていますが、認知症サポーターとしての活動実績が少ないのが現状です。今後、活動の場を提供できるよう、ニーズを把握し、活動内容等を検討していきます。						
					R7						R8	R9	R10	R11		
				目標値	6,000						6,000	6,000	6,000	6,000		
				実績値	5,580											
				前年対比	+450											
11				イ. 防災・減災、生活安全対策の推進	ひょうご防災ネットの登録推進 防災備蓄品管理事業 常備消防との連携 消防団と学校・幼児園等との連携 地域防災の整備 避難行動要支援者支援事業 (その他の事業) 雨水幹線整備事業(川すそ、西田原)ため池整備事業 安定した防災行政無線の維持管理 広域連携や民間との連携協定の充実 緊急通報システム事業 住宅耐震改修促進事業 交通安全意識の啓発活動 防犯意識の高揚への取り組み 出前講座(消費生活中核センター)	ひょうご防災ネット登録者数【累計】(人)		住民生活課 総務課	○	ひょうご防災ネットについては、例年4月の消防団分団長会議の際に団員に対して登録をお願いしています。また、防災行政無線が聞き取りにくいという住民に対して、お知らせシステムとあわせてひょうご防災ネットの案内や登録の推奨を実施しています。	登録者数は年々増加傾向にあり、防災に対する意識の向上がうかがえます。引き続き登録を推奨していくとともに、住民生活課と総務課で連携した運用に努めています。	ひょうご防災ネットは防災に特化したお知らせシステムですが、今後導入が予定されている町公式LINEとの兼ね合いに注意が必要です。既存のお知らせシステムもあるため、提供する情報が重複・過多にならないよう、適切な情報発信を心がけます。				
							R7						R8	R9	R10	R11
						目標値	7,500						7,500	7,500	7,500	7,500
						実績値	7,164									
						前年対比	+427									
	達成率	95.5%														
12	個別支援計画作成率(%)		福祉課			△	避難行動要支援者名簿を作成し、災害発生時等に自ら避難することが困難な方の情報を把握しました。また、本人の同意に基づき、地域に名簿の提供を行いました。地域では、その名簿をもとに対象者一人ひとりの具体的な避難計画(個別支援計画)を作成しました。	個別支援計画は、地域と要支援者が相談しながら作成し、年に一度は更新するため、地域で要支援者の存在を共有し、普段からの見守りにもつなげることができました。また、区長や民生委員への継続的な呼びかけにより、兵庫県下の作成率の平均値を上回る数値を維持することができました。	達成率の低下については、家族などの支援により名簿の記載を辞退される方が増加しつつあることや、災害時に避難支援をお願いする近隣住民(地域支援者)のなり手が見つからないという事情が影響していると考えられます。区長をはじめ、自治会にご理解いただけるよう努めていきます。 また、作成した個別支援計画の実効性を図るため、計画作成済みの要支援者を交えた避難訓練についても、引き続き自治会に提案していきます。							
		R7								R8	R9	R10	R11			
	目標値	100.0								100.0	100.0	100.0	100.0			
	実績値	74.1														
	前年対比	△ 3.9														
	達成率	74.1%														
13	ウ. 多文化共生社会の推進	多文化共生推進事業(日本語サロン) 多言語対応型観光アプリの導入 (その他の事業) 多言語に対応した町情報の発信	日本語サロン受講者数【延べ人数】(人／年)		社会教育課	○	日本語の学習機会の提供、生活情報の提供などを行う「ふくさき日本語サロン」は、毎月第2・第4日曜日に開催しました。 「国際食文化交流の会」は、コロナ禍による活動休止以降、まだ活動が再開できていません。	ふくさき日本語サロンの参加者については、企業実習生の入れ替え等があるものの、一定数の参加があり、サロンの活気が戻ってきました。支援者は、学習者の要望に応えるため、熱心に指導されています。	ふくさき日本語サロンについては、支援者の増員に努め、月2回、学習者のニーズに応じた学習ができるようなサロン運営に努めます。 「国際食文化交流の会」については、開催の方向で進め、外国人が楽しく有意義な時間を過ごせるよう、異文化交流の場づくりに努めます。							
			R7	R8						R9	R10	R11				
目標値			500	500						500	500	500				
実績値			355													
前年対比			+108													
達成率			71.0%													

基本目標 2. 学びを通じて生きがいをもてるまちづくり															
		指 標		「教育環境の整備や学校教育の充実」について 満足している人の割合（R5住民アンケート 20.9%）						「個性（自分らしさ）を大切にすまち」と思う 子どもの割合（R5住民アンケート 77.1%）					
		年 度		R7	R8	R9	R10	R11	R7		R8	R9	R10	R11	
		目 標 値		－	－	－	30.0%	－	－	－	－	－	85.0%	－	
		実 績 値		－	－	－	※	－	－	－	－	－	※	－	
		前 年 対 比		－	－	－	※	－	－	－	－	－	※	－	
		達 成 率		－	－	－	※	－	－	－	－	－	※	－	
※R10 住民アンケートにて															
番号	基本的方向	具体的な取り組み	主な事業	重要業績評価指標 (KPI)					担当課	令和7年度（第3期の1年目）					
										達成状況	実施内容等		事業分析 (効果・達成)		課題・改善
14	①教育環境の充実	ア. 魅力ある学校づくり	学校教育の充実 情報教育の推進 学校施設の改修・整備事業	—					学校教育課	—	一人ひとりの子どもの特性や発達段階に応じて、特別支援教育の充実や不登校児童生徒への支援に努めました。 GIGAスクール構想で導入した1人1台端末を、兵庫県の「共同調達」に参加し、仕様の統一とコスト低減を図り、一斉更新しました。 学校施設等長寿命化計画に基づき、中学校体育館の空調設備整備工事の実施設計を行うとともに、学校の実情に応じた修繕工事等を行いました。	特別支援教育や不登校支援等、一人ひとりの特性や困り感に寄り添ったきめ細やかな個別支援を行うことができました。 1人1台端末の更新は、事前の緻密な連携により、学校現場に混乱を与えることなくスムーズに更新することができました。 中学校体育館への空調設備整備に向けた実施設計を予定しており進め、各学校の実情に応じた柔軟な修繕工事を実施しました。	支援を必要とする児童生徒の状況は多様化・複雑化し続けているため、今後も支援の質を維持しながら、SCやSSW等との連携体制をさらに強化する必要があります。 新しい端末の授業での活用をさらに促進・定着させ、児童生徒の主体的・対話的で深い学びを推進します。 資材高騰や人手不足に伴う予算超過や工期延期に伴う学校運営（授業・部活動）への影響を最小限に抑えるため、工程管理の徹底に努めます。		
					R7	R8	R9	R10						R11	
				目標値	－	－	－	－						－	
				実績値	－	－	－	－						－	
				前年対比	－	－	－	－						－	
15		イ. 地域と連携した教育の推進	地域全体で子どもを育む環境づくり 地域と学校の連携・協働体制推進事業 子どもたちのふるさと意識の醸成 (その他の事業) スクールヘルパーの育成支援	「住み続けたい・いずれ戻ってきたい」と思う子どもの割合 (R5住民アンケート 69.4%)					社会教育課	—	補導委員による街頭補導や、青少年健全育成研修会、講演会、自治会学習会を開催しました。また、啓発リーフレットを作成し、配布しました。 学校支援地域本部事業として、学校支援ボランティア活動やスクールヘルパー活動に取り組みました。土曜英語教室やサマースクール、ウィンタースクールを実施し、ALTやボランティア講師による学習支援を実施しました。 柳田國男・松岡家記念館では、ふるさと学習や柳田國男ふるさと賞等の顕彰事業に取り組みました。歴史民俗資料館では、企画展・特別展、連続講座、小学5・6年生を対象としたふくさき歴史体験隊事業を実施し、地域の歴史・文化を学ぶ機会を提供しました。また、先人の顕彰事業として、山桃忌、柳田國男検定を実施しました。	研修会や講演会には地域の各種団体から参加があり、社会全体で青少年の成長の支援に努める意識を高めることができました。 土曜英語教室やサマースクール、ウィンタースクールでは小中学生の参加があり、地域の方々と学校を離れた学習活動を行うことができました。 柳田國男生誕150年である令和7年度も顕彰事業を通して「柳田國男生誕の地 福岡町」を町内外に発信するとともに、歴史民俗資料館では、戦後80年に関する展示等によって、福岡町の過去と現在の歴史や課題について広い世代に周知しました。	定年延長によるなり手不足、高齢化など、社会情勢の変化に伴い補導委員のあり方を検討する時期にあり、引き続き解決策を模索していきます。 柳田國男・松岡家記念館、歴史民俗資料館では、近隣施設と足並みを揃え、より迅速で包括的な情報提供が求められています。また、幅広い年齢層にわかりやすい展示や、建物の老朽化対応にも順次着手する必要があります。地域への誇りを醸成し、「ふるさと 福岡」を愛する子どもの育成を推進していきます。		
					R7	R8	R9	R10						R11	
				目標値	－	－	－	75.0%						－	
				実績値	－	－	－	※						－	
				前年対比	－	－	－	※						－	
16	②誰もが理解し合い、力を発揮できる環境の充実	ア. 学びの場の充実	老人大学事業 (その他の事業) 施設予約・使用料支払システム等デジタル化への検討 出前講座 公民館クラブ活動支援	老人大学受講者数(人／年)					社会教育課	○	全9コースの専門講座を開き、神崎学園、福寿学園の2学園制で運営しました。 一般教養講座では、10回にわたり、さまざまなジャンルの講座等を開催しました。	高齢者の学習の場と機会を提供し、生きがいづくりと社会参加を促進することができました	生きがいづくりの場を継続して提供していく必要はありますが、受講生の数は横ばい傾向です。受講生のニーズを調査する必要があると考えます。		
					R7	R8	R9	R10						R11	
				目標値	350	350	350	350						350	
				実績値	339										
				前年対比	+7										
17		イ. 誰もが力を発揮できる取り組みの推進	まちの先生 図書館応援隊活動 ふくさき女性応援ねっと事業 (その他の事業) 男女共同参画社会の推進 ジェンダー平等の推進 多文化共生推進事業(日本語サロン)	「まちの先生」参加者数(人／年)					総務課 社会教育課	◎	「まちの先生」は、住民同士が、大人も子どもも世代を越えてともに学びあう環境づくりを推進することを目的とした制度です。音楽・美術・茶華道・農業など、さまざまな知識・経験や技術・技能をお持ちで、ボランティア活動に意欲のある方が「まちの先生」となり、グループ・団体、学校、福祉施設からの依頼に応じて、学習活動の場に出向き、講演・指導等を行っています。	各自治会や学校等、地域の方々に幅広く利用していただきました。一部、申込後に日程変更や中止があったため、令和6年度と比較して件数・参加者数は減少しました。	「まちの先生」登録者の高齢化が顕著であり、新規で登録される先生も少ない状況となっています。他市町の取り組みを参考に、住民のニーズに対応したメニューづくりや周知方法の見直しを検討します。		
					R7	R8	R9	R10						R11	
				目標値	200	200	200	200						200	
				実績値	392										
				前年対比	△ 30										
18	③スポーツと文化芸術振興の推進	ア. スポーツ・レクリエーションの推進	各種スポーツ大会や教室の開催 年齢や体力に応じた生涯スポーツの推進 (その他の事業) スポーツを楽しめる環境づくり	社会体育施設利用者数(人／年)					社会教育課	▲	スポーツ協会・スポーツクラブ・スポーツ少年団への補助を行い、体育館事業として各種教室や講習会等を開催しました。さらに、多くの方が集まるスポーツ大会を開催しました。 子どもからお年寄りまで誰もが楽しめるニュースポーツの充実を図るため、各種教室や講習会で楽しく体験してもらいました。	スポーツ協会やスポーツクラブ、スポーツ少年団が活発に活動できる体制づくりの支援を行いました。また、各種教室や講習会を開催し、住民ニーズに対応しました。施設利用者の健康増進や運動意欲の向上は、衰えることがないことが伺えます。	総合型地域スポーツクラブ等と連携し、多くの人が運動を通して健康と体力の維持・向上が図れる体制づくりに努めます。また、各スポーツ団体にに対し、活発に活動できる体制づくりを支援するとともに、多様な住民ニーズに対応した各種教室及びスポーツ大会の充実を図ります。 施設を安心して利用していただくため、スポーツ施設の充実及び整備に努め、住民の健康増進、体力向上を支援していく必要があります。		
					R7	R8	R9	R10						R11	
				目標値	140,000	140,000	140,000	140,000						140,000	
				実績値	109,386										
				前年対比	△ 8,900										
19		イ. 芸術・文化の振興	美術展や各種公演会・イベントの開催 資料館・記念館等における地域の歴史の顕彰・啓発等 歴史文化遺産の保存・活用(資料デジタル化の検討)	エルデホール自主公演事業平均入場者数 〔座席数300〕(人)					社会教育課	△	令和7年度は8公演実施し、2,269人の集客がありました。 8/10(日)エルデボケモンフェスティバル本松製香ライブ9/14(日)喜楽館落語 第二回福岡名人寄席 11/1(土)久住昌之の“孤独のグルメ”西へ東へ～ふらっとFUKUSAKI編～ 11/16(日)EPAD(舞台芸術上映会)Reライブシアター PARCO PRODUCE 2024「リア王」 12/21(日)サクセス待クリスマスライブwith 播磨福岡・福岡高校ギター・マンドリン部 1/24(土)松浦航大歌まねSPコンサート 2/15(日)宝くじ文化公演 青春輝きライブ 1990 3/22(日)輝男(キーマン)ミュージックコンサート	8公演のうち、入場者数が300人を超えたのは6公演、うち完売まで至ったのは3公演と、比較的好調でした。しかし、2公演が不振となり、結果、前年度比マイナスで、300人という目標も未達となりました。この2公演は、イベントの多角化という観点から新しい取り組みとして実施したものでしたが、入場者数及び収益面という点においては残念な結果となりました。	エルデホール自主公演については、赤字体質についても問題視されています。その解決のためには、公演全体の必要経費を見えていく必要があります。公演を実施するためには、公演委託料だけでなく、チラシ・ポスター・チケット作成にかかる印刷費、宣伝広告費、音響・照明等の技術委託料、食糧費ほか様々な雑費、ボランティア謝金(人件費)等、様々な費用が必要となります。そのような中で、公演回数を絞り、的確にニーズを捉え、人気のジャンルに絞って公演を実施することで事業の黒字化をめざすとともに、目標値300人をクリアできるように努めます。		
					R7	R8	R9	R10						R11	
				目標値	300	300	300	300						300	
				実績値	284										
				前年対比	△ 14										
20				柳田國男・松岡家記念館入館者数(人／年)					社会教育課	◎	日本民俗学の創始者である柳田國男と松岡家の業績を顕彰するため、関連する資料を収集、保存し、柳田國男生家とともに一般公開しました。 企画展・記念展、山桃忌、柳田國男検定等の各種事業を実施し、先人の功績をわかりやすく発信しました。	記念館では、柳田國男生誕150年を記念して記念展を開催し、柳田國男や松岡家ゆかりの地と連携し、パネル展示を行いました。コロナの影響により入館者数が減少する期間が続きましたが、令和5年度から回復傾向になり、令和6年度には目標を上回りました。また、令和7年度も前年度より増加となり、多くの方に福岡町の先人の功績を知ってもらうことができました。	柳田國男・松岡家の功績を幅広い世代に再認識してもらうため、わかりやすく功績を発信する必要があります。引き続き、催しや展示手法を研究・実践していきます。また、「柳田國男生誕の地」の認知度を高めるため、SNS等を活用した情報発信を行い、誘客に努めます。		
					R7	R8	R9	R10						R11	
				目標値	13,000	13,000	13,000	13,000						13,000	
				実績値	14,429										
				前年対比	+1,268										
				達成率											
				111.0%											

基本目標3. 結婚、出産、子育てのしやすい環境づくり										出生数（人／年） ※統計は1月～12月までの1年間					「子育てがしやすいまち」と思う人の割合 （R5住民アンケート 56.8%）					
										年 度	R7	R8	R9	R10	R11	R7	R8	R9	R10	R11
										目 標 値	120	120	120	120	120	－	－	－	65.0%	－
										実 績 値	91					－	－	－	※	－
										前 年 対 比	△ 24					－	－	－	※	－
										達 成 率	75.8%					－	－	－	※	－
										※R10 住民アンケートにて										
番号	基本的方向	具体的な取り組み	主な事業	重要業績評価指標 (KPI)	担当課	令和7年度（第3期の1年目）				達成状況	実施内容等	事業分析(効果・達成)	課題・改善							
						達成状況		実施内容等						事業分析(効果・達成)		課題・改善				
21	①安心して結婚、出産ができる環境づくり	ア. 出会い・結婚サポート事業への支援	婚活支援事業	－					地域振興課	－	県が実施している「ひょうご出会いサポートセンター」について、チラシやポスターの掲示、町ホームページトップページへのバナー掲載など、PRに努めています。また、古民家カフェ「ゆう庵」が実施している結婚支援イベントについても、相談やPR等に努めています。	古民家カフェ「ゆう庵」が実施している婚活支援イベントで、昨年度、1組のカップルが誕生しました。	引き続き、県の事業や地元事業者の事業をサポートしていきます。							
				R7	R8	R9	R10	R11												
				目標値	－	－	－	－						－						
				実績値	－	－	－	－						－						
				前年対比	－	－	－	－						－						
22		イ. 妊娠・出産への支援	不妊治療費助成事業 産前産後サポート事業 (その他の事業) 不育症治療費助成事業 産後ケア事業 妊婦健診費等助成事業 保健センターの土曜日開庁	妊娠成立件数(件／年)					保健センター	◎	一般不妊治療および特定不妊治療費助成事業では、不妊治療における経済的負担を減らすため、それぞれの区分に応じて不妊治療にかかった費用の一部を助成しています。 産後6か月までの母子を対象に、宿泊・通所・訪問サービスの産後ケアを提供しています。 妊婦健診産前産後サポート事業については、教室や相談、訪問事業を実施し、不安の多い妊産婦に対して助産師や保健師による相談支援を実施しています。 継続して保健センターを土曜日開庁し、相談しやすい体制を整えています。	令和4年度より不妊治療が保険適用となりましたが、依然として経済的負担が大きいため、福崎町では令和5年度から独自に助成事業を開始しました。令和7年度には、一般不妊治療はのべ22組、特定不妊治療はのべ27組の夫婦が申請し、15組が妊娠成立しました。 産前産後サポート事業については、出生数の減少に伴い、助産師による個別相談や教室参加数は前年度より減少していますが、参加率は上昇しています。コロナが明け、それまで休止状態だった産院での教室や他施設の子育て教室、相談館を利用される家庭も増えています。関係機関と連携しながら、切れ目のない支援の提供に努めます。	妊娠期から子育て期への切れ目のない支援が継続できるよう、体制整備および相談対応スキルの向上を目指していきます。							
				R7	R8	R9	R10	R11												
				目標値	15	15	15	15						15						
				実績値	15															
				前年対比	+7															
23	②子どもを育てやすいと感じるまちづくり	ア. 子どもの健やかな成長支援	乳幼児健診事業 子育て相談・教室 ふくさきっこステーション(子ども家庭センター)事業 (その他の事業) 各種教室におけるWEB予約導入等 予防接種事業 ブックスタート事業 母子健康手帳アプリの運用 子育て支援センター事業	子育て相談・教室利用者数(人／年)					保健センター	▲	母親の育児不安の解消と、子どもの健全な成長発達を促し、疾病や発達の遅れなどの早期発見のため、乳幼児健診、子育て教室を行っています。 予防接種事業では、乳児全戸訪問の際に予防票を渡し、個別に接種勧奨を行いました。 「ふくさきっこ子育てガイド」は、母子健康手帳交付時、出生届出時のみならず、乳幼児健診時にも配布し、サービスの充実に努めました。 また、母子健康手帳アプリを導入し、スマホで子育て情報の取得や成長記録、予防接種を管理できるようになりました。 【参考／アプリ利用者数】 令和6年度末時点:352人 令和7年度末時点:384人 ※R8.5.12現在:390人	乳幼児健診は、90%以上の参加率となっています。健診で要観察となった乳幼児については、遊び教室への参加を勧奨し、必要なケースには、子ども発達すこやか相談で心理士による発達検査、療育等を促すなど、発達支援につなげることができました。 母子健康手帳アプリやふくさきっこ子育てガイドは、子育て情報の周知を手軽にでき、子育て支援の一役を担っています。	乳幼児健診が、子どもの成長発達の確認の機会となり、子育て期の育児不安の解消につながるよう、より満足度が高く効果的な健診体制の構築および内容の充実を目指します。 「ふくさきっこ子育てガイド」については、子どもの成長過程に合わせたきめ細かい編集となっているため、常に最新の情報に更新していきます。							
				R7	R8	R9	R10	R11												
				目標値	3,000	3,000	3,000	3,000						3,000						
				実績値	2,065															
				前年対比	△ 164															
24				子育て支援事業参加者数(人／年)					学校教育課	▲	子育て支援センターと子育て学習センターでは、子育て中の親子が気軽に集い交流できる場を提供し、子育ての孤立化や負担感の軽減を図り、安心して健やかに暮らせるよう支援しました。 子育て講座を実施し、親子の関わりや保護者同士の交流の機会を設けました。また、相談員等による子育て相談を実施し、保護者の悩みに寄り添うことができました。 保健センターとの連携を密にし、産前から施設利用ができることを呼びかけたり、4か月健診に出向き、施設利用の周知に努めました。	各子育て支援施設に特色を持たせ、様々な行事を通して、子育てに関する情報交換の場や、子育て中の親子の交流の場を提供することができました。 児童数の減少や、こども園等への入園希望の高まり等により、施設を利用する対象児が減少傾向にあり、目標値をやや下回る結果となりました。	子育て中の親子が気軽に集い安心して利用できるよう、引き続き安全で快適な環境づくりに努めます。 施設を利用する対象児が低年齢化し、減少傾向にあることから、利用者に合った行事内容の工夫や、施設の利用案内、周知に努めるとともに、今後は運営方法の検討も必要となってきます。							
				R7	R8	R9	R10	R11												
				目標値	10,000	10,000	10,000	10,000						10,000						
				実績値	9,935															
				前年対比	△ 762															
25		イ. 子育て家庭への支援	学童保育事業 病児・病後児保育事業 (その他の事業) 乳幼児・こども医療費助成事業 延長保育事業 一時預かり事業 公園の整備 保健センターの土曜日開庁	学童保育利用者数(月1回以上利用者)(人／年)					学校教育課 保健センター	◎	福崎小学校北校舎の教室を利用した「西部学童保育園」と、田原小学校体育館北側専用施設の「東部学童保育園」において、学童保育を行いました。また、長期休暇においては、八千種小学校の教室でも学童保育を実施しました。 神崎郡3町で病児病後児保育施設を開設し、令和3年3月から事業を開始しています。	利用児童の健全育成と安全の確保に努め、留守家庭等の子育て支援を行うことができました。 女性の就労の高まり等により利用者数は増加傾向にあり、これに対応する受け入れ体制を整えました。 病児保育事業により、病気やけがで集団生活ができない児童及びその保護者に必要な保育を提供することができました。	核家族化や女性の就労の高まり等により保育を必要とする家庭が増加しています。利用ニーズを把握し、引き続き、利用人数に応じた指導員の確保や施設的环境整備等に努めます。 病児・病後児保育事業の制度や利用方法など、引き続き保護者への周知に努めます。							
				R7	R8	R9	R10	R11												
				目標値	320	320	320	320						320						
				実績値	323															
				前年対比	0															
25				達成率	100.9%															

基本目標 4 . 安定して働くための産業振興と雇用をつくる										指 標					事業所数（事業所） （R3 経済センサス-活動調査 929事業所）					従業者数（人） （R3 経済センサス-活動調査 11,614人）																																									
										年 度					R7					R8					R9					R10					R11																										
										目 標 値					－					1,000					－					－					－																										
										実 績 値					－					※					－					－					－																										
										前 年 対 比					－					※					－					－					－																										
										達 成 率					－					※					－					－					－																										
										※R8 経済センサス-活動調査にて																																																			
番号	基本的方向	具体的な取り組み	主な事業	重要業績評価指標（KPI）	担当課	令和7年度（第3期の1年目）																																																							
						達成状況	実施内容等					事業分析（効果・達成）					課題・改善																																												
26	①農業の活性化に向けた取り組みの展開	ア. 持続可能な地域農業の推進	担い手の確保・育成事業（新規就農者確保事業） 地域計画に基づく集積・集約化の推進	新規就農者数【計画期間内累計】（人）					農林振興課	－	地域計画を策定した集落のなかで、新たに農地を担う者として位置づけがなされた新規就農者等の営農活動を支援しました。 就農相談があった際、普及センターや地元の農会長等と連携し、情報提供を行いました。 新規就農者向けのホームページにより、新規就農者への情報提供を実施しました。	新規就農相談があった1名が亀坪で地元調整を行い、普及センター等による協力を得て、認定新規就農者に至りました。 また、令和8年度は認定に向けて1名が準備を進めています。	就農相談に係る問い合わせ自体があまり多くはないため、ホームページを用いた情報提供に努めます。 普及センターや各地区の農会長、営農組合等と連携し、就農相談等に來られた農業に興味のある方や参入する意識を持った方が確実に新規就農につながれるよう支援に努めます。																																																
				R7	R8	R9	R10	R11																																																					
				目標値	5	5	5	5						5																																															
				実績値	1																																																								
				前年対比	－																																																								
27		イ. 地産地消・農商工連携事業の推進	特産品ブランド化事業 地産地消の推進 （その他の事業） 農商工連携事業 地域担い手の育成	もち麦収穫量（t／年）					農林振興課	○	もち麦の在庫が高止まりしている状況にあるため栽培面積が縮小となりましたが、栽培層によるほ場の管理及び作業の効率化を図るとともに、品質の向上に努めました。	生産者と関係者が一堂に会し、もち麦生産に係る方針等を協議したうえで作付面積に係る調整を行い、適地作付、ほ場管理の徹底を図った結果、気候にも恵まれ、反収が増加しました。 <table><tr><td></td><td colspan="3">米澤モチ2号</td><td colspan="3">フクミファイバー</td></tr><tr><td>面積 ha</td><td>収収量 t</td><td>反収 kg</td><td>面積 ha</td><td>収収量 t</td><td>反収 kg</td></tr><tr><td>R4年 作</td><td>22.3</td><td>68.7</td><td>305</td><td>6.9</td><td>16.4</td><td>236</td></tr><tr><td>R5年度</td><td>23.7</td><td>53.4</td><td>225</td><td>4.9</td><td>11.5</td><td>239</td></tr><tr><td>R6年度</td><td>13.1</td><td>21.4</td><td>142</td><td>4.6</td><td>2.5</td><td>126</td></tr><tr><td>R7年度</td><td>8.5</td><td>26.8</td><td>315</td><td>4.5</td><td>13.7</td><td>304</td></tr><tr><td>R8年 作</td><td>1.1</td><td>2.2</td><td>200</td><td>5.0</td><td>10.0</td><td>200</td></tr></table> ※R8年度は見込		米澤モチ2号			フクミファイバー			面積 ha	収収量 t	反収 kg	面積 ha	収収量 t	反収 kg	R4年 作	22.3	68.7	305	6.9	16.4	236	R5年度	23.7	53.4	225	4.9	11.5	239	R6年度	13.1	21.4	142	4.6	2.5	126	R7年度	8.5	26.8	315	4.5	13.7	304	R8年 作	1.1	2.2	200	5.0	10.0	200	消費動向が大きく伸びにくい状況のなか、在庫量が増大している状況を鑑み、生産者において経営判断が必要な状況です。栽培ほ場の選択及び適切な栽培管理を実施することで、引き続き面積当たりの収穫量である反収の増加及び品質の向上を図ります。
					米澤モチ2号			フクミファイバー																																																					
				面積 ha	収収量 t	反収 kg	面積 ha	収収量 t					反収 kg																																																
				R4年 作	22.3	68.7	305	6.9					16.4	236																																															
				R5年度	23.7	53.4	225	4.9					11.5	239																																															
R6年度	13.1	21.4	142	4.6	2.5	126																																																							
R7年度	8.5	26.8	315	4.5	13.7	304																																																							
R8年 作	1.1	2.2	200	5.0	10.0	200																																																							
R7	R8	R9	R10	R11																																																									
目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0																																																								
実績値	40.5																																																												
前年対比	+16.6																																																												
28	②地域と一体となった商工業の振興促進	ア. 商工業の活性化	小規模商業店舗活性化事業 ホームページ・バナー広告事業 工業団地拡張・誘致事業	商工会会員数（者／年）					地域振興課	△	商工会と連携し、事業者への売上応援を目的とした中小事業者応援券事業や、買物弱者対策としての移動スーパー「ふくふくまる」事業、中小企業振興資金制度など、継続して事業を実施しました。	商工会会員数は、前年度と比べて微減となっています。 中小事業者応援券事業では、国の重点支援地方交付金を活用し、6000万円分（うち20％プレミアム部分1,000万円）の応援券を発行し、地域の活性化につながりました。（換金率99.27％） 【参考／商工会会員の動き】 加入 22者（うち創業 2者） 脱退 26者（うち廃業 12者）	今後も商工会と連携し、多岐にわたる経営支援や販路拡大支援、事業継続支援に努めます。																																																
				R7	R8	R9	R10	R11																																																					
				目標値	580	580	580	580						580																																															
				実績値	536																																																								
				前年対比	△ 4																																																								
29		イ. 中小企業への支援	創業支援事業 中小企業支援事業（生産性向上の促進）	創業支援事業による起業件数【累計】（件）					地域振興課	○	創業支援事業者である商工会と連携し、創業支援セミナーや創業支援の個別相談を実施しました。	令和7年度の創業支援事業実績は次のとおりです。 ・セミナー回数 6回 ・セミナー参加者 8名 ・創業者数 2名 セミナーには8名の方が参加され、2名の方が創業されました。 また、創業支援補助金制度は3名の方が利用され、起業の支援につながりました。	創業支援および事業者の定着を図るため、引き続き商工会と連携して支援事業を実施していきます。																																																
				R7	R8	R9	R10	R11																																																					
				目標値	50	50	50	50						50																																															
				実績値	41																																																								
				前年対比	+2																																																								
30				先端設備等導入計画認可件数（件／年）					地域振興課	△	町内の中小企業の生産性向上を図るため、先端設備等導入計画の申請受付、認定に努めました。 【参考】 労働生産性を年平均3％以上向上させる計画を作成し、町の認可を受ければ、固定資産税（償却）の特例措置、信用保証（資金繰り支援）、ものづくり補助金等の優先採択等、各種支援を受けることができます。令和7年度から、特例措置を受けるためには、買上げ表明をすることが必須条件になりました。	製造業による新規認定および変更認定申請が多く、先端設備等導入制度の浸透とともに、企業の経営努力が見られました。 ・新規認定 3件 ・変更認定 9件	ホームページ等により制度の周知を図るとともに、企業の積極的な先端設備導入を促進していきます。																																																
				R7	R8	R9	R10	R11																																																					
				目標値	20	20	20	20						20																																															
				実績値	12																																																								
				前年対比	0																																																								
31	③希望や生きがいをかなえる働き方の創出	ア. 就労支援	工業団地等情報発信事業 地元企業への就労支援事業 女性の就労に係る支援事業 （その他の事業） 障がいのある人への就労支援事業 連携中枢都市圏「企業・大学・学生マッチング」事業への参加 新規就農者確保事業	工業団地従業者数（人／年）					地域振興課	△	ハローワーク姫路と神崎郡3町で「就職フェアin福崎・市川・神河 2025」をエルデホールで開催し、町内事業所にも参加していただき、就職相談面接会、移住相談等を実施しました。	就職フェアには、20社（うち福崎町は8社）の事業所が参加されました。様々な職種の募集が多かったことから、参加求職者数は69名、うち10名の方が就職することになりました。	今後も引き続き、ハローワーク姫路と神崎郡3町で就職フェアを開催する必要があります。また、ひめじ若者サポートステーションと協働して、働くことについて様々な悩みを抱えている方を対象に、継続して出張相談を実施します。																																																
				R7	R8	R9	R10	R11																																																					
				目標値	4,800	4,800	4,800	4,800						4,800																																															
				実績値	4,506																																																								
				前年対比	△ 203																																																								
32				女性の働き方セミナー受講者数（人／年）					社会教育課	▲	令和7年度も以下の兵庫県の事業を活用しました。 ①「女性のための出前チャレンジ相談」 受講者が1名ありました。 ②「出張！女性のための働き方セミナー」 「働き方とマネープラン」と題したセミナーを実施しました。 【参考/受講者数の推移】 R7 ① 1人／② 4人 R6 ① 0人／② 5人 R5 ① 0人／② 5人 R4 ① 1人／② 4人 R3 ① 1人／② 8人 R2 ① 3人／② 8人	①「女性のための出前チャレンジ相談」では、相談員との対面により直接助言を受けられるため、新たな活動や、現状を見直す方法など、相談者が一歩踏み出すきっかけにつながるものと考えています。令和7年度は1名の利用がありました。令和8年度についても実施する予定です。 ②特定社会保険労務士で年金アドバイザーでもある講師からは、主に公的年金についてわかりやすくお話しいたき、将来の年金について知っておきたい知識について説明されました。参加者の年代は50～60歳代が中心であり、参加者の理解度に合わせながら進められていました。概ね参加者は満足しており、「大変参考になった」との声が聞けました。	今後も「女性のための出前チャレンジ相談」や「出張！女性のための働き方セミナー」を活用し、再就職や起業、継続就業、働き方の見直しをめざす女性の支援を行います。 また、現在必要とされている内容となるよう、それぞれのニーズに応じた受講の検討にも努めます。																																																
				R7	R8	R9	R10	R11																																																					
				目標値	10	10	10	10						10																																															
				実績値	4																																																								
				前年対比	△ 1																																																								

■達成状況：◎ 達成 ○ 向上 △ 横ばい(前年度比-5.0%以内) ▲ 後退 × 進展なし - 該当なし

基本目標 5 . 福崎町への新しいひとの流れをつくる										指 標					転入超過数（人／年） ※統計は1月～12月までの1年間					観光入込客数（人／年）					JR福崎駅乗車数（人）					
										年 度					R7	R8	R9	R10	R11	R7	R8	R9	R10	R11	R7	R8	R9	R10	R11	
										目 標 値					150	150	150	150	150	750,000	750,000	750,000	750,000	750,000	650,000	650,000	650,000	650,000	650,000	
										実 績 値					△ 77					751,607					※					
										前 年 対 比					△ 5					+44,386					※					
										達 成 率					△51.3%					100.2%					※					
※JR西日本の公表時期が10月頃の予定																														
番号	基本的方向	具体的な取り組み	主な事業	重要業績評価指標（KPI）	担当課	令和7年度（第3期の1年目）																								
						達成状況	実施内容等				事業分析（効果・達成）				課題・改善															
33	①移住・定住の促進	ア. 空き家の利活用促進	空き家利用促進事業 空き家活用支援事業	空き家入居数【計画期間内累計】（件）					まちづくり課	—	毎年の空き家実態調査により、各区長からの提供情報を集計しました。 新規空き家に対して空家情報届出書、空き家バンクのお知らせ等を通知しました。	空き家バンクの成約数を上回る入居数となっています。空き家バンク以外の不動産取引でも空き家が解消しており、福崎町内の住宅ストックの需要は未だ高いものと思われます。	空き家のニーズが高く、空き家の状態が良い間に速やかに次の所有者へ売却し居住してもらうことが、空き家解消としては重要と考えます。																	
					R7	R8	R9	R10						R11																
				目標値	90	90	90	90						90																
				実績値	24																									
				前年対比	－																									
達成率				26.7%																										
34				空き家バンク登録数【計画期間内累計】（件）	まちづくり課	—	相続等で取得した空き家所有者からの窓口相談の際に、空き家バンクの説明と申請用紙を渡しています。新規空き家に対して空き家バンクのお知らせ等を通知しました。	不動産業者の空き家バンクに対する認知度が向上したこと、また、空き家の売却希望物件については空き家バンクと紐付けて登録するようになったことで、空き家バンク登録数が向上しています。	売却希望金額が空欄、または調整中とされている物件には問い合わせが少ない傾向にあるので、不動産業者と協議を行い。売却希望金額の設定を所有者と行うよう促していきます。																					
											R7	R8	R9	R10	R11															
										目標値	30	30	30	30	30															
										実績値	6																			
										前年対比	－																			
達成率				20.0%																										
35				空き家バンク成約数【計画期間内累計】（件）	まちづくり課	—	長年売却されなかった物件について、所有者に対し売却希望金額の値下げを依頼しました。	一定の売却希望金額（300万円未満）になると、成約に至る物件が増加しています。	数年間成約に至らなかった物件については、所有者に直接、または不動産業者を介して売却希望金額の見直しを促し、早期に流通するように働きかけます。																					
											R7	R8	R9	R10	R11															
										目標値	30	30	30	30	30															
		実績値	2																											
		前年対比	－																											
達成率		6.7%																												
36		イ. 移住等を受け入れる住環境づくり	特別指定区域制度活用事業 移住支援事業 （その他の事業） 民間開発の誘導 福崎駅周辺への生活利便施設の誘致	新規居住者区域への移住件数【計画期間内累計】（件）					まちづくり課	—	移住希望者等からの問い合わせに対して、積極的な制度の周知・説明を行い、利用の推進に努めました。	令和7年度は、新規居住者区域での建築実績が1件でした。（実績内訳：加治谷 1件）	不動産業者とも連携し、制度の更なるPRを行い、土地の有効活用に努めます。また、地区の要望や空き家の動向等を勘案し、必要に応じて新たな区域指定に向けて県等との協議を行っていきます。																	
					R7	R8	R9	R10						R11																
				目標値	12	12	12	12						12																
				実績値	1																									
				前年対比	－																									
達成率			8.3%																											
37			就業等促進移住支援金支給件数【計画期間内累計】（件）	地域振興課	—	令和7年度は、「兵庫五国移住・交流フェア2025in大阪」に出展しました。	移住を検討している方に対して、見やすくわかりやすいホームページへ更新することや、兵庫県主催の移住フェアに出展することで、相談件数は増加しています。	引き続き、ホームページの内容の充実及び移住フェアへの出展を行うことが求められます。																						
										R7	R8	R9	R10	R11																
	目標値								4	4	4	4	4																	
	実績値								0																					
	前年対比	－																												
達成率	0.0%																													
38	②観光振興、民俗学のふるさとづくりの推進	ア. 観光資源の発掘・育成・活用	妖怪ベンチ設置事業 三木家住宅、辻川界隈歴史・文化館活用事業（官民連携） ゼロカーボン観光の推進 （その他の事業） 地域資源の発掘、育成、活用事業	妖怪ベンチ設置数【累計】（基）					地域振興課	○	令和7年度は、1基（河童駒引）ベンチをNIPPONIA播磨福崎蔵書の館前に設置しました。	1基の妖怪ベンチを設置することで町内のベンチ数は23基となり、観光客の周遊ポイントが拡大できました。	令和8年度は妖怪ベンチ設置の予定はありませんが、財源の確保ができた場合は、設置場所も含めて検討を行う必要があります。																	
					R7	R8	R9	R10						R11																
				目標値	27	27	27	27						27																
				実績値	23																									
				前年対比	+1																									
達成率		85.2%																												

※JR西日本の公表時期が10月頃の予定

番号	基本的方向	具体的な取り組み	主な事業	重要業績評価指標(KPI)	担当課	令和7年度（第3期の1年目）			
						達成状況	実施内容等	事業分析(効果・達成)	課題・改善
39	②観光振興、民俗学のふるさとづくりの推進	ア. 観光資源の発掘・育成・活用	妖怪ベンチ設置事業 三木家住宅、辻川界限歴史・文化館活用事業(官民連携) ゼロカーボン観光の推進 (その他の事業) 地域資源の発掘、育成、活用事業	大庄屋三木家住宅、歴史・文化館宿泊者数(人／年) R7R8R9R10R11 目標値2,2002,2002,2002,2002,200 実績値3,074 前年対比+579 達成率139.7%	社会教育課	◎	県指定文化財「大庄屋三木家住宅」と、国登録有形文化財「旧辻川郵便局舎」を宿泊施設として活用しています。 株式会社PAGEを指定管理者に選定し、令和2年11月に「NIPPONIA播磨福岡蔵書の館」としてオープンしました。 「NIPPONIA」は、三木家住宅の離れ、副屋、内蔵などを活かした日本家屋の魅力ある五つの客室と、旧辻川郵便局舎の大正レトロな二つの客室を備えています。	三木家住宅および辻川界限歴史・文化館を活用した宿泊施設については、オープン当初から新型コロナウイルス感染症の流行により厳しい状況でしたが、令和4年1月以降、新型コロナウイルス感染者が減少傾向になり、令和4年度からは年間を通して営業することができました。令和5年5月からは定休日なしで営業しています。今年度もインバウンドの増加などにより宿泊者数は前年度より増加し、目標数を上回りました。	三木家住宅・旧辻川郵便局ともに、建物の修理が必要になっています。建物調査により状況を把握し、計画的に修理に取り組めるよう検討します。 引き続き、指定管理者と連携して、三木家住宅や辻川界限でのイベントを実施し、集客に努めます。 新聞・雑誌などのマスコミ取材を積極的に活用するとともに、ふるさと納税返礼品としての魅力発信に努めます。
40				大庄屋三木家住宅レストラン利用者数(人／年) R7R8R9R10R11 目標値1,0001,0001,0001,0001,000 実績値822 前年対比+89 達成率82.2%	社会教育課				
41				観光交流センター利用者数(人／年) R7R8R9R10R11 目標値130,000130,000130,000130,000130,000 実績値133,765 前年対比+2,938 達成率102.9%	地域振興課				
42				図書館町外登録者数【累計】(人) R7R8R9R10R11 目標値2,0002,0002,0002,0002,000 実績値282 前年対比－ 達成率14.1%	社会教育課				
43	④まちの魅力発信による関係人口の創出	ア. 地域の魅力発信	地域の魅力発信事業 (その他の事業) ふるさと応援寄付金(ふるさと納税)事業 まつり等イベント開催事業 食をテーマにしたイベント「FukuFes.」等 町活性化事業への支援 ホームページバナー広告事業	観光協会ホームページアクセス件数(件／年) R7R8R9R10R11 目標値300,000300,000300,000300,000300,000 実績値523,664 前年対比△ 248,316 達成率174.6%	地域振興課	◎	X(旧Twitter)やInstagramなどのSNSと連携した情報発信を継続的に行うことができました。 昨年度と比べてアクセス件数は25万件程度減少していますが、テレビでの紹介など不確定要素が多い分野であるので、約52万件のアクセス件数があるため全体としては堅調に推移していると考えています。	SNSでは、常にリアルタイムでの更新を心掛けており、情報発信源としての機能を十分に果たしていると考えています。	引き続き、観光情報発信を行うことが求められます。
44				観光SNSフォロワー件数【累計】(件) R7R8R9R10R11 目標値20,00020,00020,00020,00020,000 実績値20,708 前年対比+3,057 達成率103.5%	地域振興課				
45				ふるさと応援寄附金額(千円／年) R7R8R9R10R11 目標値200,000200,000200,000200,000200,000 実績値118,183 前年対比+4,735 達成率59.1%	地域振興課				
						○	町外の多くの寄附者に応援してもらえよう、寄附への入口を広げ、ポータルサイトの内容の充実、記念品の拡充とともに、記念品協力事業者を増やすなど寄附額の増加に努めました。	令和6年度にふるさと納税プロジェクトチームを立ち上げ、令和7年度も複数回のプロジェクト会議を実施しました。商工会や外部の意見を取り入れながら、町全体として、さらなる寄附額の増額に向けて取り組みました。	毎年のルール改正に対応しつつ、さらなる寄附額の増額に向けて取り組みます。

【目標達成状況】

評価	令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和11年度	
達成	◎	8	17.8%							
向上	○	13	28.9%							
横ばい	△	10	22.2%							
後退	▲	4	8.9%							
進展なし	×	0	0.0%							
該当なし	－	10	22.2%							
KPI項目計		45	100.0%							